

「算数、主体的・対話的で深い学び」

松伏町教育委員会・松伏町立松伏小学校



松伏町学力向上の視点

- 1 個に応じた指導の充実
- 2 家庭学習の習慣化
- 3 教員の指導力向上
- 4 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業の実施
- 5 学習規律の徹底と浸透
- 6 読書活動の充実
- 7 外国語教育・英語教育の充実
- 8 小規模特認校の実施

- 4 「チーム埼玉」
学力向上パワーアップ
事業の実施（継続）

算数科を中心に、重点校である松伏小学校の取組を、埼玉県教育委員会の支援を受け、町内の小中学校に広め、町全体の学力向上を図る。

研修の内容

松伏小学校

【児童の学習意欲を高める工夫】

- 自分の考えを明確に持てる問題掲示・発問（めあて・課題）の工夫
- 考えたことを全体に広げる学習の場の工夫
- 学習の振り返りを大切にし、学習内容の確認や自己評価の工夫
- 児童の自己肯定感を高める指導の工夫

【児童の学力の個人差への対応と学力の長期的で確実な定着】

- 「学習支援カルテ」を利用した児童の実態把握・PDCA サイクルの確立
- 朝学習等を活用した、確かな学力を身につけさせる指導の工夫
- 家庭との連携を図った、家庭学習の取組方法の工夫

小中連携

【教職員間の連携事業】

- ・学校公開週間における小中間の訪問、授業参観や情報交換会の実施。
- ・合同夏季研修会の実施。
9年間を見越した教科指導の円滑な接続について協議し、その結果を実践している。
- ・松伏町教育研究会での授業研究会、研究協議の実施。

松伏授業プランの徹底

1時間の授業の時間配分や流れ（つかむ、考える、深める、まとめる、振り返る）を示し、町内の研究授業や年次研修等のあらゆる機会に松伏授業プランに沿った指導・支援を行っている。

- ①短く、課題解決したくなる導入の工夫
- ②本時の課題（めあて）を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示
- ③主体的に課題解決できる時間を確保
- ④協働的な学びの時間を確保
- ⑤課題（めあて）に沿った学習のまとめ
- ⑥振り返りを文章で書くこと

学習過程	学習活動（児童・生徒）	指導のポイント（教師）
導入 つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○復習問題に取り組み ○前時の学習を想起する ○本時の学習の課題（めあて）をノート等に記入する ○今日の学習の見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のねらいに迫る適切な課題を示し、板書する ○7分以内で、児童生徒の学習意欲がわき、やってみたくと思わせる課題を提示する
展開 考える	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもつ（自力解決【個の学び】） ○授業の体験や学習をもとに自分の考えをもつ ○考えを整理し、ノートに整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人で考える場を設定する ○自分でしっかり考える時間を確保する ○一人一人が考えをもてるように、適切な支援をする（ヒントカードの配布、声かけ等）
展開 深める	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを深める（協働の学び【集団の学び】） ○協働の目的に応じて有効な学習形態（ペア・グループ4人以内）を活用する ○協働の学びの前に、「何のために集団の学びをするのか」「どのように学ぶのか」を児童生徒に明確にする ○自分の考えと比較しながら友達との考えを聞く ○自分の考えを見直し、修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを深める場を設定する ○授業の目的に応じて有効な学習形態（ペア・グループ4人以内）を活用する ○協働の学びの前に、「何のために集団の学びをするのか」「どのように学ぶのか」を児童生徒に明確にする ○児童生徒の言葉で、具体的な交換を行わせる ○思考を促める問い直しや言葉かけを行う
終末 まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の課題（めあて）に沿ったまとめをノート等に記入する ○活用問題に取り組み ○制に応じた応用（発展・高本）を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のねらいに沿ったまとめを、板書する ○児童生徒から問いかけは事前に行き詰まらざるよう ○児童生徒の言葉で、わかるまとめをする ○活用問題に取り組みさせ、定着を図る
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りを文章で記入する ○学習の課題（めあて）に沿って振り返る ○「何ができたようになったか」実感する ○次の学習意欲に繋ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りの時間を設定する ○本時のねらいが達成できたか評価する ○振り返りから家庭学習へつなげていく ○教師への学習意欲を喚起する

「1単位時間で①つかむ～⑤振り返る」まで完結する授業

児童生徒が分かる喜びを実感できる授業へ



効果的な学びの実践

<児童が問いをつくる授業>

導入の際、写真や動画などで場面を提示したことにより、児童自ら問題をつくるようになってきた。これにより、問題に対する関心が高まり、進んで自力解決に取り組む児童が増えた。

①導入

松伏授業プランにのっとり導入は短く

- 問題、課題につながる場面の設定
写真掲示、ビデオ、具体物の提示



- 子供達からの気づきで問題をつくる
所要時間（5～7分）

POINT：問題作りでの声かけ

→言葉かけ「どんなことが分かる？」

子供達が主体的に考えるための声かけをする

<全国、埼玉県学力・学習状況調査の分析>

○松伏町学力向上推進委員会の実施（年3回の実施）

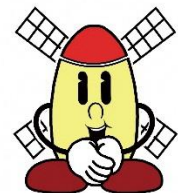
調査結果を基に児童生徒の学力や学習状況を把握し、それを教育指導の充実や授業改善等に役立てるなど、教育に関する継続的なPDCAサイクルを確立する。また、各学校の学力向上の取組等を発表し、共有化を図っている。

○分析結果を基に朝学習プリントを作成する。

○学力を伸ばした実践を紹介する「のびのび通信」の発行

教師の指導するポイントや、学力を伸ばした児童に学習のこつなど、教職員のよさを共有する。

○朝学習で行う「検証テスト」の作成をする。



<児童向け「自己肯定感アンケート」の実施>

「友達や先生は今の自分を認めてくれていますか」「今の自分は好きですか」など自己肯定感に関するアンケートを毎月実施した結果、自分自身を肯定的に捉える意識が高まった。